

# Shien

し え ん

## 第32号

バックナンバーは  
 埼玉県立図書館  
 ウェブサイトへ!



こどもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援(Shien)する。  
 そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

2022年12月「図書館と県民のつどい埼玉2022(こども読書活動交流集会)」にて行われた高柳芳恵先生の講演会、「自然はふしぎがいっぱい!—好奇心をかきたてる身近な自然との向き合い方—」では多くの方たちにご好評をいただきました。

今回は、その際にも取り上げられていた「科学絵本」に焦点をあて、おはなし会に科学絵本を取り入れている県内のボランティア団体や、おすすめの科学絵本をご紹介します。

## 特集1【科学絵本とは】



「科学絵本」と聞くと、勉強を促す本、知育のための本だと思う方がいます。しかし、決してそうではありません。わたしたちの身の回りに広がる、あらゆる「なぜ?」という疑問から生まれた、物語絵本同様に、面白く、楽しい本です。

それゆえに、ジャンルも多岐にわたります。動物、宇宙などの自然科学だけではなく。暮らしや文化、歴史、人間の心……。人の「なぜ?」が生まれた分だけ、科学は広がっていきます。「科学絵本」は、日常の「なぜ?」からはじまり、自分で考え、子どもたちの世界を広げてくれる本なのです。

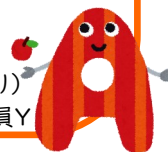
科学絵本のパイオニアである加古里子さんは「大事なのは知識ではなく本質を見る眼であり、子どもの方がそれは優れていると思う」とおっしゃいました。

(中略)遊びこそ生きることなのです。これ(加古さんの言葉)は私も同意見です。科学絵本はこんな子どもの世界を広げるお手伝いをするものです。

(前略)子どもが自分で考え、遊び、何かを見つけて喜ぶ場としての絵本を大人と一緒に楽しむと、今の社会が失っている本質を見る眼が蘇るのではないかと期待しています。

(『科学絵本の世界100 学びをもっと楽しくする』平凡社 p3中村桂子さんの言葉より)

文責 職員Y



## 科学絵本を知るためにおすすめの本

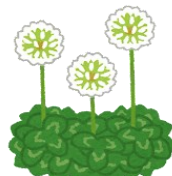
- 『科学よみものの30年 そのあゆみとこれから』(小川真理子・赤藤由美子著 連合出版 2000)
- 『科学の本っておもしろい 2003-2009』(科学読物研究会編 連合出版 2010)
- 『科学絵本の世界100 学びをもっと楽しくする』(平凡社「別冊太陽」2021.3)
- 『かがくする心の絵本100』(横山真佐子〔ほか〕編 平凡社 2003)
- 『かがくのとものもと 月刊科学絵本「かがくのとも」の50年』(福音館書店 2019)
- 『自然とかがくの絵本総解説』(赤木かん子編著 自由国民社 2008)



## 特集2【科学絵本を取り入れたおはなし会 を行っているボランティア団体の活動紹介】

学校や図書館などのおはなし会の際、読み聞かせに科学絵本を取り入れている2つの団体の方に取り入れる際に大事にしていること、団体の取り組み、アドバイスなどをいただきました。

### 浦和子どもの本連絡会(さいたま)



浦和子どもの本連絡会の会員は、小学校のおはなし会でよく科学絵本をプログラムに取り入れています。科学絵本は、物語絵本とは違う面白さを持っていると感じている読み手が多いからでしょう。当会では、科学絵本を含めた絵本勉強会を月1回開き、主に小学校のおはなし会で読める絵本を検討しています。

また毎年、科学絵本を多数取り上げる連続講座「読み聞かせスキルアップ講座」(さいたま市立中央図書館主催)に、講師・スタッフを派遣しています。

私たちがおはなし会で読む科学絵本を選ぶ時に、気をつけているポイントです。

- ①対象年齢にあった面白い内容 (ただし、自然環境・季節・現代の科学的知識に反していないもの)
- ②遠目がきくこと (一部見え難い部分は、読まない・指差しまたは言葉を補足することで補えること)
- ③読んだ後に、子どもに「本物を見てみたい」「もっと深く知りたい」と思ってもらえること
- ④本の内容を真似しても安全であること

特に④は大事です。「つばき」(「かがくのとも」1993年2月号 矢間芳子作 福音館書店)を読んだ時は、「最近、チャドクガという毛虫退治のため、消毒しているツバキがほとんどです。花の蜜を吸うのは、消毒していないツバキだけよ」と一言添えています。



また、読んだ後に「今日読んだヒガンバナは、学校の裏門にありますよ」とか、実物をその場で見せるより、子どもが探して自分の目で発見し、感動できるように配慮しています。時間があれば、本の内容を実際にやって見せることもありますが、毎回ではありません。やり過ぎると絵本より、見せた実験の方が子どもの印象に残ってしまうからです。

さらに、プログラムは年間で考え、植物・動物・虫・自然現象・宇宙などのバランスをとります。そして、一番大切なのは、その絵本を面白いと思った読み手が読むこと。虫嫌いでも本を触るのも嫌な人に虫の絵本を読まれても、その絵本の面白さは伝わりません。「虫嫌いでもその絵本が面白いと思えたら、子どもに読んでみましょう」が、当会のモットーです。(文責 浦和子どもの本連絡会 中村涼子)

参考：活動記録誌「あしあとNo.5」「あしあとNo.6」(浦和子どもの本連絡会発行)に、各学校でのプログラム実践記録・おはなし会(幼児・小学校・学童保育・図書館)で読める分野別科学絵本リストを掲載しています。

## トムの会(久喜)



本の好きな子どもに育ててほしいと、県立久喜図書館が開設された1980年から土曜日のおはなし会を続けています。

今年の5月のおはなし会の日、庭のすだちの木にナミアゲハの幼虫を見つけました。

『へんしん すがたをかえるイモムシ』の絵本でイモムシが蝶に変身すると、「チョウチョだ！」と声をあげていた子ども達は持参した黒いイモムシにも興味津々。のぞき込むように見入っていました。

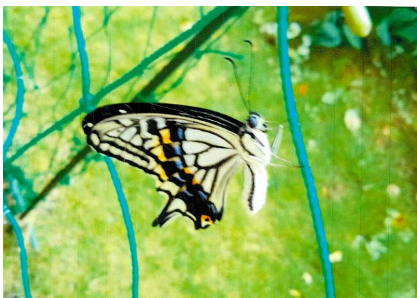
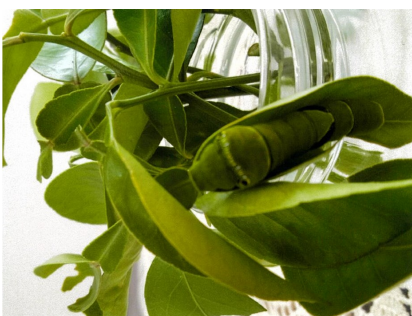
自分の目で変身を見てみたいと空瓶で飼育。葉っぱを食べて糞をして、緑色のイモムシに脱皮してから8日後、枝に糸で体をくくって蛹になりました。静かに動かず時を待って、10日目の早朝、もぞもぞ動く気配がして変身。羽化したばかりのナミアゲハに見とれました。

身近な自然の中にある驚きや感動を科学絵本を道案内に体験し、好奇心いっぱいの子も達と一緒に自然の不思議を楽しんでいきたいと思っています。

(文責 トムの会 米田佳子)

○活動場所 県立久喜図書館・児童センター・学童保育など

○活動内容 ストーリーテリング・絵本の読み聞かせ・紙芝居・わらべうたなど

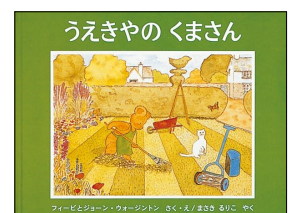


《イモムシ・アゲハチョウの様子》

### ♪ある日のプログラム♪

(幼児・小学校低学年向け 5月) 30分

- ・紙芝居『なんだろう』  
(野沢茂原案・解説 桜井信夫脚本 やべみつのり画 童心社 1997)
- ・絵本『へんしん すがたをかえるイモムシ』  
(桃山鈴子作 井上大成解説・監修 福音館書店 2022)
- ・絵本『うえきやのくまさん』  
(フィービとジョージ・ウォージントン作 まさきりこ訳 福音館書店 1987)



## 【高柳芳恵先生オンライン講座受講レポート】

2023年8月24日、高柳芳恵先生のオンライン講座「夏の終わりを楽しく遊ぼう」（主催 世田谷おはなしネットワーク・（公財）せたがや文化財団 生活工房 同日13時30分から15時）を受講させていただきました。

2つの季節が移り変わる頃を行き合いの季節といい、年に4回ある内の夏から秋にかけてのこの時期がもっとも変化に富んでいるそうです。その様子が丁寧に描かれている「ゆうぐれのさんぽ」（「ちいさなかがくのとも」2012年8月号 高柳芳恵文 夏目義一絵 福音館書店）の朗読に合わせて講座がはじまりました。図書館ボランティアをやっていたという高柳先生の読み聞かせは何とも耳心地がよく、夕暮れから咲き始める花、鳴きはじめる虫、さらには空にかかる月のことまでお話はとどまることがなく、あっという間の楽しい時間となりました。

読み聞かせの後は、メマツヨイグサのタネを水につけて種が飛び出る様子を見たり、エゴの実を泡立ててシャボン玉をふいてみたり。実演を交えての講座は「体験を通して絵本をみると視点が自分のこととして読めるようになる」という高柳先生の言葉通り、自分の目で見るということがいかに大切なことであるか改めて知ることができた講座となりました。



講座の最後には当日の8月24日から31日までの1週間、月の観察をするという宿題ができました。半分である上限の月からまん丸の満月になるまで1週間、身近な存在である月も毎日観察していると、上る場所や形がこんなにも違うのかと新たな気づきがありました。9月は中秋の名月。講座でもご紹介されていた、「じゅうごやおつきさま」（「ちいさなかがくのとも」2021年9月号 高柳芳恵文 松成真理子絵 福音館書店）の最後のページに出てくる水を薄く張った黒い盆に月を映し出す、盆の月もやってみたいです。（職員M）



### 子ども読書支援ボランティア情報収集担当よりおすすめウェブサイトの紹介 科学を学びに行ってみよう施設

今回はかつて私が子どもと遊びに行ってきたお勧めの科学系の施設を3つ紹介します。お休みの日に子どもと訪ねると1日中楽しめ親子で色々なことが学べます。

（子ども読書支援ボランティア 坂本）

#### 国立科学博物館

<https://www.kahaku.go.jp/>

科学に関する全ての分野（生物・化学・物理・天文etc）の展示と様々な体験ができる博物館です。展示物は幅広く、恐竜の骨格や天文学の発展、技術革新などを紹介しています。常展示の他に特別展や企画展なども開催しています。

#### 日本科学未来館

<https://www.miraikan.jst.go.jp/>

科学と技術の魅力を体験できる展示施設です。最新のテクノロジーや未来のビジョンを通じて、興味深い展示や様々な体験ができます。親子で一日中遊べる充実した内容で、科学の面白さを存分に堪能できます。

#### つくばエキスポセンター

<https://www.expo-center.or.jp/>

科学技術の最先端を体験できる施設です。展示や実験を通じて、未来の技術や研究成果を紹介しています。ロボットや人工知能など、最新の技術に触れることができます。また、ワークショップやイベントも開催され、参加者が主体的に学び、楽しむことができます。

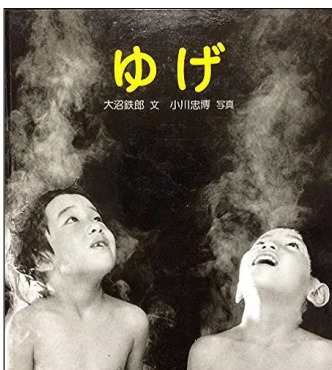
## 小学校での 読み聞かせに向く 科学絵本

学校でのおはなし会で、物語の絵本だけでなく科学絵本の読み聞かせをしてみたいと思っている方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし、科学絵本はたくさんあり、何を選べばいいのかわからないという声も多く聞かれます。今回はそんな方向けに、おすすめの科学絵本を紹介いたします。

タイトル	作者	出版社 出版年	本の紹介	読み聞かせポイント	対象
ゆげ	大沼鉄郎文, 小川忠博写真	福音館 書店 1984	いろいろな場面で見かける「ゆげ」のモノクロの写真絵本です。 寒い日に口から出るゆげ、火にかけたやかんからあがるゆげなどが、モノクロなので、よく見えます。そのゆげの行方は、空にのぼり、冷やされて、雨になって落ちてくるのです。	身近に見る、おいしいものからあがるゆげ、熱くても冷たくてもあがるゆげの数々。 子どもたちは、知っているものに反応します。「かがくのとも」129号として、1979年に出版された本なので、読み手の大人には古めかしくも、懐かしい写真。子どもたちと共有できるのがうれしいです。	低学年
がぶりもぐもぐ!	ミック・マニング作, ブリタ・グランストローム作, 藤田千枝訳	岩波書店 1999	食物連鎖のことが、植物の芽から始まり、イモムシ→キリギリス→クモ・・・という具合にわかりやすく、見開きごとに、カラフルな絵で描かれています。	「たべたいのは だれかな?」「おいしいな おいしいな」の繰り返しなので、子どもたちは、次の生き物を予想しながら、聞いてくれます。 「食物連鎖」の言葉は知らなくても、食べたり食べられたり、理解しやすく、身近なこととして考えられるようになります。	中学年
雪の写真家 ベントレー	ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン作, メアリー・アゼアリアン絵, 千葉茂樹訳	BL出版 1999	実在したベントレーの、失敗したり、苦労しながらも、粘り強く、雪の結晶の写真を撮影することにかけて一生を描いています。	『雪の写真家ベントレー』と一緒に、ベントレー本人が撮影した写真集『Snow Crystals』(W.A.Bentley Dover Publications)を見せると、「ベントレー、ほんとにいたんだ!」となります。また、「日本にも雪の殿様と言われた人がいたんだよ」と茨城県古河市の土井利位の『雪華図説』も紹介することで、世界を問わず、雪の結晶に魅せられた人がいた、と意識を広げられます。	高学年

(子ども読書支援ボランティア 大塚)



# 子ども読書支援センターからのお知らせ

講師を派遣！

## 読み聞かせボランティアのための講師派遣

県立久喜図書館では、読み聞かせボランティアの団体(3名以上)に講師を無料で派遣しています。

講師は県内で読み聞かせボランティアとして活動しているベテランの方々。研修会を終えた団体からは、毎回たくさんの感想をいただいております。お申込みは、**県立久喜図書館**まで。

読み聞かせの絵本を選ぶことに苦慮しています。先生の話聞いて、とても参考になりました。

講座に参加してよかったです。知らない本を沢山紹介してもらえてとても参考になりました。

【小学校ボランティア】

【小学校ボランティア】



詳しくはこちら！

県内最大級の  
図書館イベント！

## 図書館と県民のつどい埼玉2023

「図書館と県民のつどい埼玉」は、県立・市町村・高校・大学等の図書館や、活字文化を支える団体が協力して開催する県内最大の図書館イベントです。

日時:2023年12月10日(日)10時から16時

場所:桶川市民ホール・さいたま文学館

★中島京子さん記念講演「図書館で夢を見る」

こども読書活動交流集会

★絵本の読み聞かせ実践講座(講師:公益財団法人東京子ども図書館理事 杉山きく子さん)

★学校図書館講座「学校司書の実践に学ぶ—科学読み物をはじめとした本の選書や活用について—」  
(講師:東京学芸大学附属世田谷小学校学校司書 金澤磨樹子さん)

★こどもの本のひろば(おはなし会・工作会)



詳しくはこちら！



交流や  
情報交換も！

## 学校図書館講座を開催しています

埼玉県立久喜図書館では、司書教諭や学校図書館担当者を対象とした学校図書館講座を毎年夏季休暇期間に開催しています。

令和5年度は、①「特別支援学校における電子図書館管理システム導入から活用に至るまで」と、②「ICT時代でも変わらない図書館の可能性—図書とインターネット情報の利点・欠点について—」をテーマに取り上げ、埼玉県立久喜図書館が図書館運営支援として、新設校の図書室の選書アドバイスをさせていただいた、埼玉県立岩槻はるかぜ特別支援学校にて開催しました。



詳しくはこちら！

